

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成21年度 第2回生物学グループ運営委員会
議 事 概 要

I. 日時 平成21年8月24日(月) 14:00~16:00

II. 場所 私立大学情報教育協会事務局

III. 出席者 秋山、伊藤、須田 各委員 (事務局 井端、森下、平田)

IV. 検討事項

生物学の学士力の具体化を中心に行ったが、その前に、再度、学士力を本委員会でまとめる必要性について確認した。

1. 学士力まとめの必要性について(確認)

事務局より以下の通り説明を行った。

日本学術会議では学士課程教育の課題として、多様化している教育の中で、教育の本質的な意義は基本的な素養を身につけることであるとしており、それを実現するためには何らかの基準も必要であり、参照基準を策定することを検討している。参照基準として「基本的な考え方」をまとめているが、分野別の審議については21年10月以降の開始となっている。

私情協でのICT活用教育は学士力に結び付けて考えていかなければ、ICT活用についての検討はできないのではないかと考えている。学士力のどの部分をどのようにICTを使ったら効果的なのかなど、明確にする必要があるので、原点に戻り、学士力についてまずは委員会で検討することになっている。

事務局からの説明を受けて、委員からは、「生物学の学士力は範囲が大きくミニマムではないので、各教員が委員会でまとめた学士力をすべて使って実現することは困難」、「最低限の理解を深めるという意味では、知識、理解についてe-Learningを活用したリカレント教育など、私情協独自の指針を出せるのではないか」、「コアカリイメーjと測定方法をまとめ、汎用的技能や態度・志向性は各大学での検討内容にしてはどうか」、「私情協として特長的なところを作るほうが意義があるのではないか」との意見があった。

さらに事務局より、以下の通り説明を行った上で、今回の課題である学士力の具体化に入った。

委員会で最終的にまとめた学士力を意見聴取する際に、コアカリイメーjや測定方法もつけて意見を聞いてみたい。一般の教員であれば中間報告の学士力だけでコアカリイメーjなど想像がつくが、文部科学省や日本学術会議などでも見られるので、よりイメージしやすいようにコアカリイメーjや測定方法を入れたい。別紙にある教育学の委員会では到達度の深度と測定方法でまとめている。

2. 学士力の具体化

前回の委員会でまとめた学士力(最終版)に、到達目標と測定方法を入れていき、「2. 汎用的技能(1)」まで作成した。次の通り。

1. 知識・理解

(1) 生命の基本単位の細胞の構造及び遺伝子や生体成分の機能などの知識を得ることから、個体の生命活動を理解できる。

- ・用語を知っている (○×テスト、穴埋めテスト、記述)
- ・用語の説明ができる (記述)
- ・生体成分同士の関係を説明できる (論文、レポート、プレゼン)

(2) 生物の共通性(普遍性)と多様性を理解できる。

※個々の生物種の特質を理解し、それらの類似点と相違点を理解する。

- ・遺伝の法則、遺伝子の働きを知っている (○×テスト、穴埋めテスト、記述)

遺伝の法則、遺伝子の働きを説明できる (記述)

- ・進化による多様性を知っている (論文、レポート、プレゼン)
- ・生物の分類(系統、位置づけ)を説明できる

(○×テスト、穴埋めテスト、記述、論文、レポート、

プレゼン)

(3) 生態系の機能と構造が理解できる。

※生物群集を理解するとともに、非生物(無機)環境との相互関係を理解する。

- ・エネルギーの流れと物質循環を知っている (○×テスト、穴埋めテスト)

エネルギーの流れと物質循環を説明できる (記述、論文、レポート、プレゼン)

- ・食物連鎖(網)を知っている (○×テスト、穴埋めテスト)

食物連鎖(網)説明できる (記述、論文、レポート、プレゼン)

- ・生態遷移を知っている (○×テスト、穴埋めテスト)

生態遷移を説明できる (記述、論文、レポート、プレゼン)

2. 汎用的技能

(1) 生物の観察や実験によって、実証に基づいた自然科学的で客観的な論理性を習得できる。

※身近な生物に興味、関心、疑問を持ち(問題発見能力)、解決するための手段と方法を考え、実行できる。

- ・基礎的な実験器具を使って実験・観察できる
- ・生物標本を作成できる
- ・自然科学的で客観的な実験レポートを作成できる
- ・問題点に対して適切な考察ができる
- ・生物を飼育、培養できる

3. 次回委員会

次回は10月5日(月)14:00より開催し、引き続き学士力の具体化を行うこととした。